

診察室

ざくばらん

運転免許更新

検査が不安

認知症の診断書 その1

三つ子の魂百までも。性格は変わらないものだ。もちろん、治す薬はないが、損な性格に振り回されて、壊れそうな人もいる。

76歳のA子さん。1年に1、2回は顔を見せる。今年の開口一番は「センセ、私もダメ。眠れない。ご飯がのどを通らない」であった。その割には、相変わらず体にはボリュームがあって、訴えにも迫力がある。実は、運転免許の更新日が近づいたのだ。「まるで、赤紙がきたみたい」とは、いささか時代錯誤では。

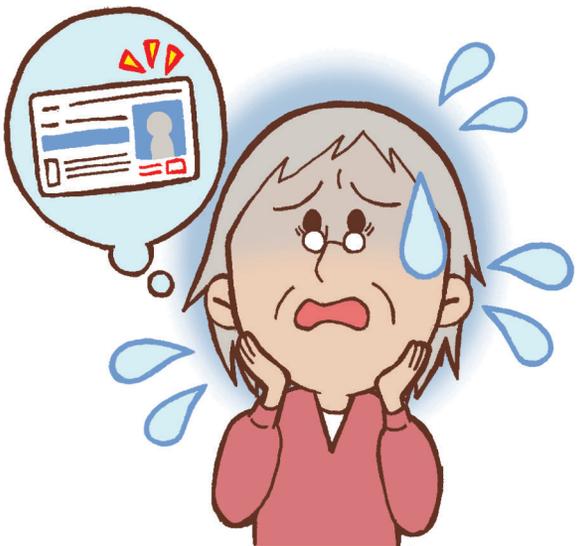
もしも、75歳以上の高齢者に義務付けられた免許更新時の認知機能検査で引っ掛かるとする。と、免許を取り上げられる。「どうしよう?セ

ンセ。夫が入院している病院にも行けない」と嘆くのだ。でも、彼女の、「物忘れがする。認知症かも」という心配は今に始まったことではない。で、これまでの物忘れの検査やMRI（磁気共鳴画像装置）の検査には異常はないのだ。

だいたいが、Aさんのいう物忘れなんか、たかが俳優の名前が出てこないとか、世間話をしていて思った言葉について詰まったという程度である。だが、免許更新のための検査というだけで、いや検査とかテストと聞いただけで、Aさんの頭は真っ白になるといふのだ。絶対にパスなんかしないと言い張る。

だが、そんなに思い詰めては、ホントの病気になってしまう。A子さんよ。大丈夫だ。最悪、テストがゼロ点になってもいい。ワッシーが、「あなたは絶対に認知症なんかではない」という診断書を書いてあげるから。

と、なんとかAさんを納得させ、3カ月くらいはたったか。ニコニコ顔のAさんが、キーキを持ってワッシーの前に現れた。無事に免許更新ができたとのこと。甘いものは苦手なワッシーだが、このキーキだけはいただこう。



イラスト・野畑桃花

（石黒修三 いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身）